
令和 3 年度予算第一特別委員会質問要旨

○ 局別審査

令和 3 年 2 月 26 日

質問者（質問順）

- 1 山 田 一 誠 委 員（自 民 党）
- 2 横 山 勇 太 朗 委 員（自 民 党）
- 3 こ が ゆ 康 弘 委 員（立 民 フ）
- 4 竹 野 内 猛 委 員（公 明 党）
- 5 荒 木 由 美 子 委 員（共 産 党）

局 別 審 査

1 山 田 一 誠 委 員 (自 民 党)

1 令和3年度 都市整備局予算案について

(1) 令和3年度予算編成の考え方について伺いたい。

2 組織機構改革による横浜駅周辺地区とみなとみらい21地区の連携強化について

(1) 組織機構改革の狙いについて伺いたい。

(2) 横浜駅周辺地区とみなとみらい21地区を結ぶ歩行者ネットワーク拡充をどのように進めていくのか伺いたい。

(意見) 歩行者ネットワークの拡充と合わせて、MaaSなど様々な交通サービスへの対応についても、進めていただきたい。これからの都市間競争を考えた時には、都心機能の一層の強化が重要である。

(3) 両地区の連携を都心機能の強化へ結び付ける手法について伺いたい。

3 YOKOHAMA AIR CABINの開業について

(1) これまで本市としてどのような役割を担ってきたのか伺いたい。

(2) YOKOHAMA AIR CABINの夜間景観の特徴について伺いたい。

(3) YOKOHAMA AIR CABINの安全対策について伺いたい。

(4) YOKOHAMA AIR CABINの開業への期待について伺いたい。

(意見) 感染症対策をしっかりと行い、今後も開業準備を進めていただきたい。

4 関内・関外地区の賑わい創出に向けた公共空間の活用について

- (1) みなと大通り及び横浜文化体育館周辺道路の社会実験の実施内容について伺いたい。
- (2) 社会実験の実施結果について伺いたい。
(意見) ゆとりのある空間を創出し、様々な取り組みを検討していただきたい。
- (3) 今後の事業スケジュールについて伺いたい。
- (4) 水辺空間の活用の取組状況について伺いたい。
- (5) 水辺空間を生かした今後のまちの賑わいの創出について伺いたい。

5 都市デザイン50周年について

- (1) 令和2年度における特徴的な都市デザインの取組状況について伺いたい。
(意見) 都市の開発から活用への転換、また、道路空間の車中心から人中心の空間への再編など、様々なタイミングを捉えた都市デザインの取組を今後も進めていくためには、50周年の節目の年に将来を見据えた方向性をしっかりと議論していくことが必要である。
- (2) 都市デザイン50周年の取組について伺いたい。
- (3) 50周年の節目を迎えるにあたって、これからの都市デザインの取組への意気込みを伺いたい。
(意見) 今後の都市づくりにおいても、都市デザイン行政に積極的に取り組んでいただきたい。

6 地域まちづくりの推進について

(1) 「横浜・人・まち・デザイン賞」地域まちづくり部門の意義と効果について伺いたい。

(意見) 地域で活動する団体の後押しになるよう取組を継続していただきたい。

(2) 「ヨコハマ市民まち普請事業」の実績を振り返り、事業の果たしてきた役割について伺いたい。

(3) コロナ禍における「ヨコハマ市民まち普請事業」コンテストへの工夫について伺いたい。

(4) 地域まちづくり推進の考え方について伺いたい。

(意見) 今後も積極的な取組を期待する。

7 地震火災対策について

(1) 地震火災対策の現状と課題について伺いたい。

(2) 地震火災対策の課題に対する取組について伺いたい。

(3) 地震火災対策の効果検証の内容について伺いたい。

(4) 地震火災対策の今後の取組について伺いたい。

(要望) 副市長の強力なリーダーシップのもと、庁内の連携をより一層図りながら、地震火災対策を着実に推進していただくことを要望する。

2 横山 勇太郎 委員（自民党）

1 泉ゆめが丘地区土地区画整理事業について

（１）都市計画決定に至るまでの経緯について伺いたい。

（２）事業の進捗状況及び課題について伺いたい。

（３）商業施設の概要について伺いたい。

（意見）区内選出議員も揃って事業の完了を待ち望んでいるため、しっかりと進めていただきたい。

2 高速鉄道 3 号線延伸について

（１）昨年秋のアンケート調査の結果について伺いたい。

（意見）地域の方々の貴重な声であることを十分に踏まえ、今後の 3 号線延伸に取り組んでいただきたい。

（２）アンケート調査の意見の内容について伺いたい。

（意見）鉄道を開通させるだけでなく、鉄道とその他の交通機関を円滑につなぐため、10年先の開業時を見据えた地域全体での交通ネットワークが検討されることを期待する。

（意見）バス路線の再編は地域にとって影響が大きいため、重要な課題である。

（意見）地域の方やバス事業者等とも密に連携し、取り組んでいただきたい。

（３）事業着手に向けた検討の進め方について伺いたい。

（要望）関係者と連携し、交通政策審議会答申の目標年次である令和12年の開業を目指し、早期着手に向けて、着実に検討を進めるように要望する。

3 瀬谷駅南口第1地区第一種市街地再開発事業について

(1) 本事業の経緯について伺いたい。

(2) 新型コロナウイルス感染症が事業に与えた影響と現在の進捗状況について伺いたい。

(3) 再開発ビルのテナント構成及びオープン時期について伺いたい。

(4) 再開発事業完了までの進め方について伺いたい。

(意見) 再開発事業完了までにはまだ時間がかかるが、最後までしっかりと手続き等を進めていただきたい。

(5) 瀬谷駅周辺への期待について伺いたい。

(意見) 完成に向けて来年度もしっかりと取り組んでいただき、本市の郊外部が更に活性化することを期待する。

4 国際園芸博覧会について

(1) 令和3年度の予算案と取組内容について伺いたい。

(2) 園芸博の会場規模、来場者数、経済波及効果について伺いたい。

(3) 国の検討会における議論のポイントについて伺いたい。

(4) 園芸博の事業費、体制の考え方について伺いたい。

(5) 園芸博の開催に向けた今後の取組に対する決意について伺いたい。

(要望) 新型コロナウイルス感染症対策は当然のこと、アフターコロナの長期的な事業展開もしっかりと見据え、準備を行うことを要望する。

5 旧上瀬谷通信施設のまちづくりについて

(1) 区画整理事業実施に向けた現在の手続の状況について伺いたい。

(意見) 区画整理事業の実施にあたっては、地権者の合意形成を図っていくことが重要である。

(2) 地権者との調整の進め方について伺いたい。

(要望) 地権者の想いをしっかりと受け止めながら、土地利用の早期の具体化に向け、引き続き取り組むことを要望する。

(3) 新交通システムに絞った検討を進めている理由について伺いたい。

(4) 令和3年度予算と取組内容について伺いたい。

(意見) 公共交通を新たに整備するには、整備費用の確保や事業のスキームをしっかりと整理する必要がある。

(5) 新たな交通の整備において想定する事業スキームについて伺いたい。

(意見) 事業費の確保にあたっては、国の補助制度を積極的に確保すべきであり、着実に事業進捗を図っていただきたい。

(6) 令和3年度予算と取組内容について伺いたい。

(7) まちづくり、新たな交通及び周辺道路の一体的整備に向けた意気込みについて伺いたい。

6 I R 事業について

(1) I R 区域周辺においてどのような交通アクセス整備を想定しているのかについて伺いたい。

(意見) 何度も訪れてみようと思っただけのためには、スムーズなアクセスを実現する必要があるため、具体化に向けて取り組むことを期待する。

(意見) 都心臨海部の魅力を更に高めていくために、I R 周辺のまちづくりに対しても、しっかりとした考えを持って取り組んでいくべきである。

(2) I R 事業を踏まえた周辺のまちづくりの考え方について伺いたい。

(意見) 都市整備局の各課の力を結集して、横浜のまちの魅力を高めていっていただきたい。

(意見) I R の全容が明らかになる区域整備計画の作成までは、事業者選定などの機会を捉え、タイムリーに市民の皆様へ説明していただきたい。

(3) より幅広く関心を持っていただくための具体的な広報の取組について伺いたい。

(意見) 広報の取組には力を入れて、より多くの皆様により深く、正しく知っていただく努力を続けていただきたい。

(4) 優れた区域整備計画案を事業者とともに作り上げていく決意について伺いたい。

(意見) 区域整備計画をしっかりと良いものを作り上げていただきたい。

3 こがゆ 康 弘 委員（立民フ）

1 まちの防災広場整備事業について

(1) 「まちの防災広場」の整備効果について伺いたい。

(意見) 「まちの防災広場」を整備することは、老朽空き家等に苦慮している地域や解体費用、解体後の土地の固定資産税が負担となる建物所有者の双方にメリットがある。

(2) まちの防災広場整備事業の課題について伺いたい。

(3) まちの防災広場整備事業の活用促進に向けた今後の取組について伺いたい。

(4) 延焼防止の観点のみならず、空き家対策として対象エリアを市内全域に広げ、局際的に取り組むべきと考えるが、それについて伺いたい。

(要望) 空家対策には、課題も多い。様々なアイデアを使って、展開を検討することを要望する。

2 東横線跡地整備事業について

(1) これまでの進捗状況について伺いたい。

(2) 事業に時間を要している理由について伺いたい。

(3) 今後行われる健全度調査の内容について伺いたい。

(意見) 安全対策は最優先ですので、まずは、しっかりと健全度調査を行っていただきたい。

(意見) 調査結果を踏まえ、構造物の補修や撤去などの対応が必要になった場合には、速やかに対応していただきたい。併せて今後の跡地全体の利活用の考え方やスケジュールなどについても見直していく必要がある。

(4) 東横線跡地の横浜駅までの区間について、今後の整備の進め方について伺いたい。

(要望) 今後、オリンピック・パラリンピックを始めとする様々なイベントで活用できるように早期の整備を要望する。

3 神奈川東部方面線について

(1) 現在までの相鉄・JR直通線の利用状況について伺いたい。

(2) 想定していた利用者数に至っていない要因について伺いたい。

(意見) 直接都心方面から居住地に戻るのではなく、横浜駅という大消費地に立ち寄りたいたいというニーズに応えていくことも考えるべきである。

(意見) 相鉄・東急直通線も同じ新宿方面へ向かう計画となっていることから、需要を喚起するには、両路線のすみ分けを考えることも必要である。

(3) 相鉄・JR直通線の需要喚起に向けた取組について伺いたい。

(意見) より多くの方にご利用いただくためにも、相鉄・JR直通線の利用状況を踏まえ、鉄道事業者とともに利便性向上に向けて取り組んでいくことが必要である。

(4) 相鉄・東急直通線開業時の利用者確保に向けた取組について伺いたい。

(要望) 都心部から人を呼びこみ、相鉄線沿線の活性化に繋げることができるよう、引き続き取り組むことを要望する。

4 旧上瀬谷通信施設地区の新たな交通検討事業について

(意見) 旧上瀬谷通信施設地区では、国際園芸博覧会の開催やその後のまちづくりが検討されており、それらの交通需要を見込んで、適切に交通や道路の対策を行うことが重要である。

(1) 新たな交通に関する現時点の検討状況について伺いたい。

(意見) 公共交通を新規整備するのであれば、その後長期間にわたって持続可能なものとなる必要があり、そのためには前提となる需要の確実性が担保されるべきである。

(2) 新たな交通の整備目的について伺いたい。

(3) テーマパーク誘致の現在の検討状況について伺いたい。

(4) 国際園芸博覧会が終了してから、間があくことがないように、まちづくりやテーマパークなど施設の誘致を進めていくべきと考えるが見解を伺いたい。

(5) 連節バスなど既存のインフラを用いた輸送手段も検討すべきと考えるが、見解を伺いたい。

(意見) 赤字の鉄道路線を新設すべきでないため、今後はより慎重に検討を進めるべきである。

(6) まちづくりの状況を踏まえて適切に判断しながら進めるべきと考えるが、見解を伺いたい。

(要望) 来場者数を新たな時代認識の下で正確に把握し、周辺の道路ネットワークの整備なども同時に行いながら、シャトルバス、パークアンドライドなど、どのような交通手段に分散させるかなど、再度検討を行い、より良い計画となるようしっかりと調整しながら事業を進めるよう要望する。

5 IR（統合型リゾート）推進事業について

（意見）国から選定されなかった場合のことも想定して、山下ふ頭を今後どうするかについて並行して検討すべきである。

（1）国による選定を前提として検討を進める理由について伺いたい。

（2）事業者選定における事業者側及び市側の課題について伺いたい。

（意見）国に対してスケジュールの見直しなどを要請すべきである。

（3）3回実施されたZ o o m説明会における主な意見や質疑内容について伺いたい。

（4）今後行うとされる住民意見聴取の実施方法とそのスケジュールについて伺いたい。

（5）区域整備計画が確定し、住民説明会等を通して十分な理解が深まった時点で住民の賛否を問うための住民投票等を行うべきと考えるが、見解を伺いたい。

（意見）IRの賛否について、適切な時期に住民投票などにより有意な数の市民意見を聞き、その結果をしっかりと尊重していただきたい。

6 新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえたまちづくりについて

(意見) これまでの延長線上でまちづくりを進めていくのではなく、パンデミックという大きな社会環境の変化を機に、まちづくりの方向性を変化させる必要がある。

(1) 新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえた郊外部のまちづくりを進めていくための課題認識について伺いたい。

(2) 新型コロナウイルス感染症の拡大前後の東京都心や横浜都心のオフィス空室率の推移について伺いたい。

(3) 新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、都心臨海部のまちづくりへの影響をどのように捉えているか伺いたい。

(意見) 都市づくりを推進するにあたっては、コロナの影響に対し柔軟に対応していく姿勢が大切である。

(4) 感染症拡大による市民生活や企業活動の変化を十分踏まえた都市づくりという視点が重要と考えるが、見解を伺いたい。

(要望) 新型コロナウイルス感染症による影響をきちんと分析したうえで、横浜市の将来像をしっかりと描いていただくことを要望する。

1 都市計画マスタープラン全体構想の改定検討について

（１）都市計画マスタープランの改定に向けた現在の取組状況について伺いたい。

（２）プラン改定にあたって、どのような点を重視しているのか伺いたい。

（意見）策定に向けては関係者としてしっかりと議論を重ね、丁寧に進めていただきたい。

（３）プラン改定に向けての進め方について伺いたい。

（４）閉塞感が漂う時だからこそ、都市計画マスタープランには、市民や企業が、夢と希望を持てる都市のビジョンをしっかりと描くべきと考えるが、見解を伺いたい。

（意見）プラン改定にあたっては、横浜の置かれている状況や環境の変化などを的確に捉えながら、しっかりと検討を進めることを期待する。

2 まちの不燃化推進事業について

（１）建築物不燃化推進事業の進捗状況と補助実績について伺いたい。

（意見）条例制定を機に、よりいっそう関係区局が連携して危険性の高い空家の対策に取り組んでいくことが必要である。

（２）建築物不燃化推進事業と空家対策との関係性について伺いたい。

（３）令和５年度以降を見据えたまちの不燃化推進事業の今後の取組について伺いたい。

（要望）被害半減の目標に留まることなく、更はその先を見据えて、地震火災対策、まちの不燃化推進事業を推進することを要望する。

3 京急沿線の魅力向上に向けた公民連携によるまちづくりについて

(1) 富岡・能見台地区におけるまちづくりの取組状況について伺いたい。

(2) 富岡・能見台地区におけるまちづくりの今後の展開について伺いたい。

(3) 今年度実施した「とみおかーと」の無償実験結果について伺いたい。

(意見) 今年度は、引き続き有償による実験も既に開始され、この結果によっては、今後本格的な事業化に向けた取組が加速するのではないかと期待している。

(4) 「とみおかーと」を持続可能な地域交通としていくための様々な創意工夫について伺いたい。

(意見) 持続可能な地域交通として定着していくよう、引き続き都市整備局としてもしっかり連携・サポートしていただきたい。

(5) 金沢区心部のまちづくりを実現していくことは本市南部地域の発展につながる重要な取組と考えるが、見解を伺いたい。

(要望) 大規模な土地の地権者への働きかけとともに、自然、歴史や文化といった区心部のポテンシャルを十分に生かしたまちづくりに向け、取組を加速させるよう要望する。

4 国際園芸博覧会と旧上瀬谷通信施設のまちづくりについて

(意見)「SDGs 未来都市」の実現を目指す横浜で、国家的プロジェクトとなる最高ランクの国際園芸博覧会が開催されることは大変意義深く、環境に対する新たな価値観や行動変容を、横浜・上瀬谷の地から全世界に発信することを期待する。

(1) 園芸博の環境に対する基本的な考え方について伺いたい。

(意見) まちづくりにあたっては、自然環境を生かしていくことが大切である。

(2) 環境に配慮したまちづくりの考え方について伺いたい。

(3) 八王子街道や瀬谷地内線における整備内容について伺いたい。

(意見) 交通対策としては、瀬谷から上瀬谷をつなぐ新たな交通の検討も進めているとのことだが、整備にあたっては、相鉄線との乗り換えの利便性なども重要である。

(4) 新たな交通を整備する際には、相鉄線瀬谷駅とのアクセス性を考慮すべきと考えるが、見解を伺いたい。

(意見) 新たな交通との接続により利用客の増加が予想される既存の相鉄線瀬谷駅についても、バリアフリー化や雨に濡れない通路の整備など、利用者にとってより利便性の高いものとなるよう、事業者と連携をとり、検討を進めていただくことを期待する。

5 I R（統合型リゾート）について

（１）県警等と連携した治安対策の検討状況について伺いたい。

（意見）I Rには、多くの観光客が集中して訪れるという点では治安対策も大変重要である。引き続き、県警との連携を密に、検討を進めていただきたい。

（２）県と連携したギャンブル等依存症対策の取組状況について伺いたい。

（意見）アルコール、薬物に加え、近年は青少年のゲーム・スマホ依存も大きな問題となっており、ギャンブル依存症対策と合わせ、総合的に取り組むべきである。

（３）依存症対策総合支援事業の充実に向けた、市大との連携を含めた全庁挙げての取組状況について伺いたい。

（意見）依存症の予防・啓発、治療、回復支援など、部局の垣根を越えて、一丸となって総合的な依存症対策の推進に引き続き取り組んでいただきたい。

（４）市内観光の振興のため、斬新な発想を持った人材の登用や、DMOなど組織体の設置の検討状況について伺いたい。

（５）市内経済の振興方策の具体化に向けた考え方について伺いたい。

（意見）それぞれの業界の方々とも意見交換しながら、具体化に向けて取り組んでいただきたい。

（６）増収財源の使途を安定的に活用する仕組みについての考え方について伺いたい。

（意見）現在は日本に無いI Rについて、理解を深めていただくために、様々な媒体や方法を使った情報発信が重要である。

（７）市民の理解促進に向けた取組状況について伺いたい。

（意見）どこまでも市民の理解と協力あつてのI R事業であるため、市民の皆さまの理解促進に、引き続き全力を尽くしていただきたい。

（意見）事業の進捗に合わせて、市民への情報提供を積極的に行っていただきたい。

（８）今後の事業進捗に合わせた市会への対応について伺いたい。

（要望）区域整備計画の作成に向けて、更に充実させていただくとともに、引き続き、市民や市会への情報提供を欠かさず行っていただくようお願いします。

1 IRについて

- (1) 令和3年度予算でIR推進事業は3億6千万円とあるが、その事業の項目とそれぞれの費用について伺いたい。
- (2) インフラ・交通アクセス対策等検討調査について、その内容を更に伺いたい。
- (3) 検討調査をした結果、区域外の整備費を市が負担することになるのか、また区域外の整備を本市が行う根拠は何か。
- (4) 区域内の整備で本市が負担する整備費は、以前聞いた岸壁の耐震化、液状化防止以外に何かあるか、また本市が整備する根拠についてあわせて伺いたい。
- (5) 区域外から区域内に渡って整備するインフラに関する費用について、どのような根拠で本市が負担せざるを得ないのか。
- (6) IRの建物を造ることがまちづくりの一環だというのが、既に基盤として上下水道もあり、事業者も宅地開発をするわけではない。それでも、まちづくりの一環だという主張なのか。
- (7) 区域外・区域内における市の負担額が明確になるのはいつか。
- (8) 事業期間中に市から中止を求めることは可能か。また中止を求めた際に、どのようなリスクを負うことになるのか。
- (9) 市がIR施設訪問を組み入れた旅行商品を作り、販売することを魅力ある滞在型観光を実現するための取り組み例として示している。民間事業者のためにこのような取組を行う必要があるのか。またその根拠は何か。
- (10) 市が企画の働きかけやプランニングのサポートなどを行う場合に、横浜市の職員が関与することは間違いないと考えるが、見解を伺いたい。
- (11) 横浜市の職員が関与するのか、端的に答えてもらいたい。
- (意見) コロナ禍で大変な状況にも関わらず、IRについて特別扱いすることを前提に税金が使われるとすれば問題である。
- (12) IR事業者に横浜市・地方議員との接触を禁じているが、事業者の代理人については禁じていないこと、また地方議員からの市への働きかけも禁じていな

いのはなぜか。

- (13) 横浜市として、国会議員が贈収賄で逮捕された事例などのように I R の誘致に関して利権が絡んだ問題が起きないようにするための方策を考えているのか。
- (14) 国政の問題が絡んできているため、国会議員が介入をすることはあり得ないと考えるが、万が一そのようなことが起きた時には、どのように対応するのか。
- (意見) 癒着の問題や利権が絡む問題で断り切れない状況も生まれている。ぜひ全職員に向けて問題が起こらないように情報発信をしてほしい。
- (15) 事業者に対してグローバルな観光人材育成のために、大学との連携を求めているが、これは大学が I R 事業者への人材供給することを認めるものであると考えられるがどうか。
- (16) サラ金・性風俗店が周辺に乱立しても規制できないと考えるが、どうか。
- (17) 事業者公募を始めているが、選定委員会が事業者を決定するのはいつになるのか。
- (18) 国に申請するための区域整備計画については、夏の設置運営事業予定者を選定した後の秋から冬と言われているが、いつになるのか。
- (19) 区域内における負担額の問題で、事業者との関係では、その増収額の範囲の中で負担額が明確になると言っていた。区域整備計画が出されるのはしばらく先で、その数字はいつ明確になるのか分からず、不透明なまま進めるやり方がいいのか。
- (20) 事業者公募において、現在 1 社から手が挙がっているが、その点は確認しているのか。
- (21) 事業者が選定されても、市長選で I R について反対する市長が誕生したら、その先の手続きは止まることになる。この内容を公募する事業者に前提条件として明記するべきではなかったのか。
- (22) コロナ禍にありながら、経済的社会的効果を数値で示すことについて、市は区域整備計画作成までに明確化すると言っているが、事業者を選定時に公表すべきではないか。
- (23) 追加の R F C に応じた 5 事業者は、横浜市への財政貢献を数値で示すことができなかつたため、世界最大規模のカジノ I R を設置するという条件そのもの

が成り立たないと思うがどうか。

(24) 大阪 I R は、開業時点での展示場やホテル室数を大幅に削減する措置を講じている。このような流れからみて、横浜市として今すぐに I R カジノを止める判断をすべきと思うがどうか。

(25) 中国政府が国民に対して海外でのカジノ観光を規制する準備を進めているという報道については承知しているか。

(26) 令和元年に文化観光局や政府観光局が行った調査結果を見ると、実際には横浜 I R が見込んでいる訪問者数には届かないのではないか。

(27) I R 誘致の裏付けとなるデータ等が無い状況であるにも関わらず、なぜ市は強気な姿勢でいるのか。

(意見) I R 事業における採算性の数値等が分かった時点で公表すべきであると考え。情報発信について強く改善を求める。

(意見) 横浜市がどれだけ財政的な負担をするかなど、現時点で不明な点が多いため、市の大事な税金をカジノ誘致に使うのは言語道断である。